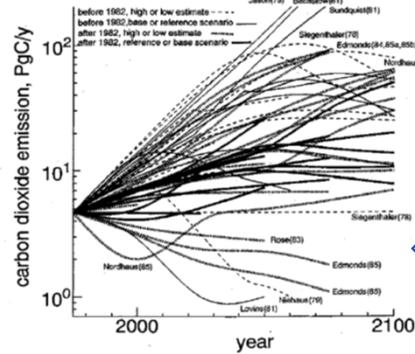


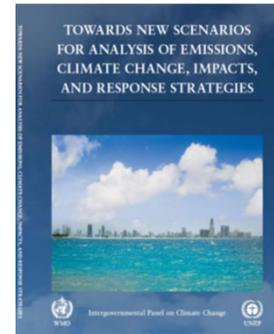
# IPCCの活動とAIMの貢献(シナリオを中心として)

年	IPCC
2000	IPCC SRES 特別報告書
2001	IPCC 第3次評価報告書
2007	IPCC シナリオWS (RCP)
2007	IPCC 第4次評価報告書 (SRES)
2014	IPCC 第5次評価報告書 (RCP)
2018	IPCC 1.5°C特別報告書 (RCP, SSP)
2022	IPCC 第6次評価報告書

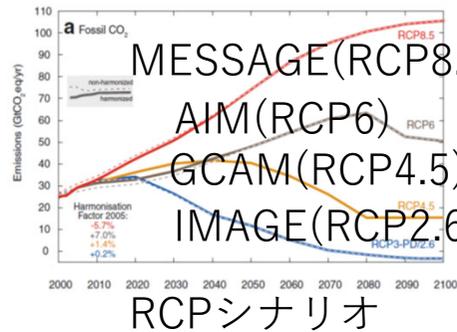


「人類の将来に関する抽象的議論からの脱却」(松岡)

初期のシナリオデータベース (松岡他, 1992)



IPCCシナリオWSでRCPについて議論 (2007年9月)



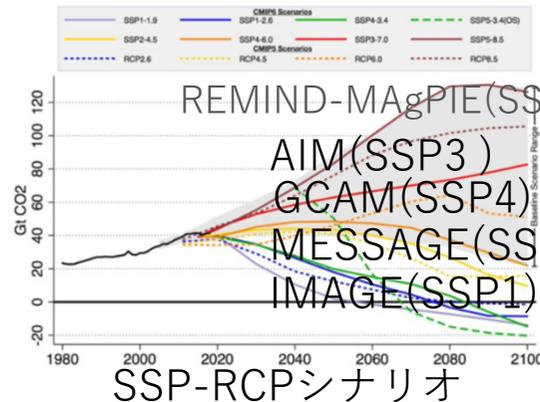
RCPシナリオ



IPCC第3次評価報告書作成をリードする森田さん(右から2番目)



第12回統合評価モデリングコンソーシアム年次会合 (2019年12月、つくば国際会議場)



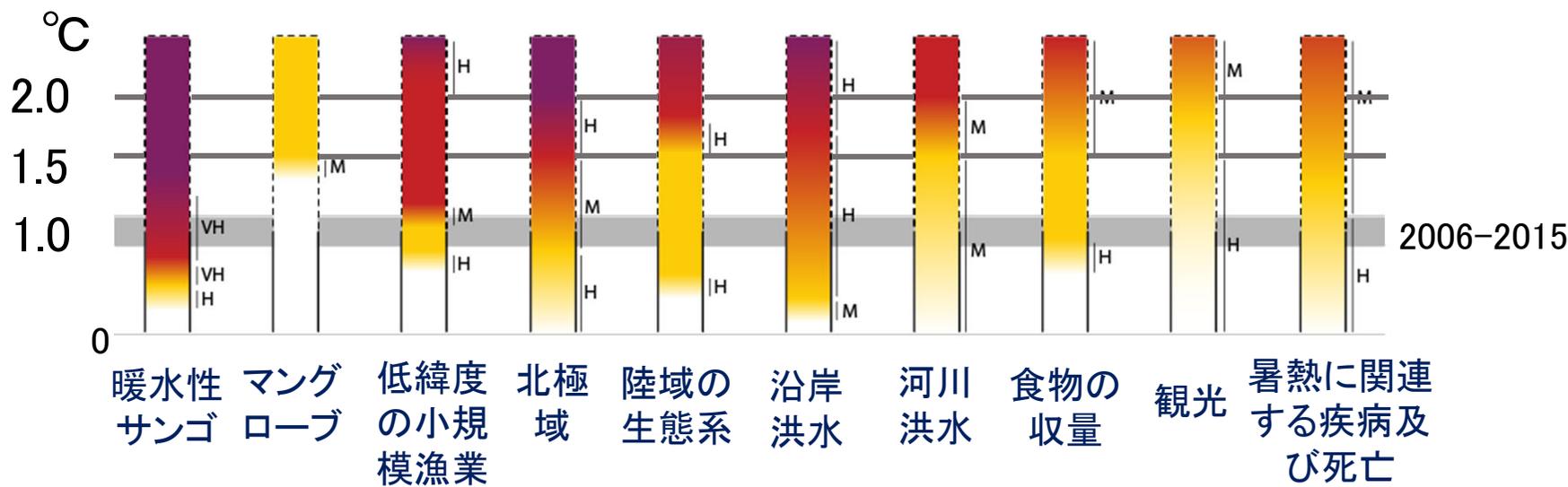
SSP-RCPシナリオ

現状の政策の延長  
1.5°Cオーバーシュート  
2°C目標  
1.5°C目標 (オーバーシュートなしが、1.6°Cまでのオーバーシュート)  
第6次評価報告書に記載されているGHG排出経路

# 気候変動による影響は深刻化している

人々、経済、生態系への気候変動影響やリスクを示す懸念の理由  
(Reason For Concerns (RFCs))

工業化以前と比べた地球表面気温と海面水温の世界的平均値(°C)



バーニングアンバー (Burning ember) : 温度上昇によってどのぐらいリスクの度合いが高くなっていくのか、変わっていくのかといったことを表現する図

トランジションに関連した確信度: L(低い)、M(中程度)、H(高い)、VH(非常に高い)

出典: IPCC1.5°C特別報告書 Figure SPM.2